



令和4年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



- ① 広報きりしま(12月号)
- ② 43,500部・22回
- ③ A4判・32ページ
- ④ 霧島市 秘書広報課

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



講評

企画

- ・ 移住というテーマを一気に読ませる構成は見事。見出し、小見出しともに言葉が練れている。絵はがきやクーポンの位置も全体の構成を壊さない配慮。ミニ企画も充実し、お腹いっぱい。
- ・ 移住をテーマにした特集は6ページに渡って掲載し、移住者の生の声を紹介することで霧島の魅力発信に寄与している。記事はボリュームがあるが、最後までさらっと読める内容で、小見出しをつけたり、インタビュー形式にしたりと書き手のテクニックが際立っている。「読む時間がない」という読者の意見も踏まえ、工夫がなされていると感じた。

文章

- ・ 長い文章も小見出しなどを挟みながらリズムよく読ませる。全体的に文章が読みやすい。
- ・ 18ページの「人の風景」は手塾のある男性を紹介し、読み応えがある。12月号ということで、しめ縄づくりはホットな話題。文章の構成も読みやすく仕上がっている。

デザイン
レイアウト

- ・ 平板な紙面が立体的に見える堂々のレイアウト。テーマとデザインに一体性がある上に、読者に対して細かい気遣いをしている様子がよく分かる。読み物とデータなど情報のバランスも絶妙だ。色遣いも上品。
- ・ 前半の移住者の特集については記事の文字がやや小さく感じたが、写真を大胆に配置し、余白も確保することでスマートな印象に仕上がっている。後半のお知らせなどもうまく整理されている。表紙のセンリョウの写真も真っ赤な実が目を引き、周囲の緑の葉も目を和ませてくれる1枚である。





令和4年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



- ① 広報かのや(11月号)
- ② 42,550部・24回
- ③ A4判・28ページ
- ④ 鹿屋市 政策推進課

- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
- ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



講評

企画

- ・ コロナ禍、ウクライナ紛争の中、食の在り方が問われている。地域の存続も担う「薩摩芋」に正面から挑む姿勢は好感が持てる。歴史と今のストーリーが多面的に展開されており、読み応えがあった。
- ・ サツマイモの魅力に多方面から迫った特集は見応え十分。特にサツマイモに関わる多くの人を取り上げ、それぞれの熱い思いが伝わってきた。企画から編集まで約半年間かけたということで、その苦労や作り手側の思いも十分に感じ取ることができた。全国和牛能力共進会の特集も、和牛日本一という歴史的な快挙を伝える上で意義のある記念企画になっている。

文章

- ・ 分かりやすい言葉遣いを心がけ、登場人物の名前などにはルビを入れるなど読み手への配慮がなされている。文章の長さもほどよく、縦書きと横書きをうまく使い分けていて大変読みやすい紙面。

デザイン
レイアウト

- ・ 紙面を立体的に見せる工夫を感じる。メリハリが効いたレイアウト。サツマイモのアップ写真が力強い。
- ・ 写真のレベルが大変高い印象。人物の表情も豊かで、特に惹かれたのは11ページのサツマイモの写真。目に入った瞬間、香りが伝わってくるような感覚であった。レイアウトなども若者を意識したものになっており、一度読み終わった後でも、もう一度読み返したくなるような内容である。





令和4年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



- ① 広報AIRAview(アイラビュー) (7月号)
 - ② 29,000部・12回
 - ③ A4判 35ページ
 - ④ 始良市 秘書広報課
- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



講評

企画

- ・「有機のまち」というテーマを、映える巻頭写真を入口に特集へリズムよくつなげている。惜しいのはページ数。あと2ページ読みたい。
- ・企画記事の「クローズアップ」は、有機農業に注目し、色鮮やかな野菜の写真を大胆に紙面展開している。コンセプト通り、インテリアにもなる一冊で、一見広報誌とは思えないおしゃれな雑誌のような印象を受けた。記事も読み応えがあり、農業の魅力は十分伝わる企画である。

文章

- ・特集の見開きページは小見出しがあと1カ所あったほうが息継ぎしやすく読みやすい。
- ・各連載・コーナーごとにメリハリの効いた文章構成になっていると思う。まちの話題「あいらフラッシュ」も、掲載枠をすべて統一するのではなく、話題性によって大きさを変え、文章量も増やしたりすることで、読者の関心を引きやすい内容になっている。

デザイン レイアウト

- ・ゆったりと読めるのはデザイン、レイアウトの力。特集の野菜の写真はカラー配置、トリミングなどが熟練の技。野菜の力を引き出している。
- ・表紙のかごに入った野菜の写真が秀逸。また、企画テーマの文字を中央に配置することで、中身がすぐに分かるようなレイアウト。後半部分の行政情報も色使いが工夫され、文字数が多い情報をうまく整理していたと思う。





令和4年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



- ① 広報あぐね (9月号)
 - ② 10,000部・12回
 - ③ A4判 35ページ
 - ④ 阿久根市 総務課
- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



講評

企画

- ・ 10年ぶりの神舞奉納に対する思いが伝わってくる。紙面構成が練れており、随所に読ませる工夫がみられる。巻頭写真を含む9ページ展開はボリュームも十分。簡潔な解説書のような。
- ・ 地域の伝統文化である「神舞」について、本奉納当日の様子に加え、その歴史やしきたりなどを数ページにわたって紹介しており、後世に伝えていく上でも今後も活用されていく特集になったのではないかと。写真を多用することで読者の興味を引き、記事に誘導していくような工夫が見られた。

文章

- ・ 読みやすい文章。言葉の選択にも注意が払われている。
- ・ 神舞の特集では儀式の解説などが詳しく記事化され、分かりやすい内容。10年ぶりということで、伝統芸能を受け継ぐ人たちへのインタビューなど関係者の声を多く掲載してもよかった。市政ニュースの記事については、内容がコンパクトにまとめられていて読みやすい構成にもなっている。見出しをより工夫すると、さらに読者を引きつけるのではないかとと思う。

デザイン
レイアウト

- ・ 写真のトリミングもうまい。特集の組写真もメリハリがあり、動きが表現されている。文字とレイアウトのバランスがよい。
- ・ 写真を多く使用し、読者の視覚に訴える手法は効果的である。表紙の写真、キャッチフレーズも興味を引く。ページによって偏りがある一方で、余白が目立つページもある。限りある紙面なので一つでも空いたスペースを利用した情報を掲載してもいいかもしれない。





令和4年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



- ① 広報いさ(12月号)
 - ② 12,000部・24回
 - ③ A4判 28ページ
 - ④ 伊佐市 企画政策課
- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



講評

企画

- ・ 「特別支援学校とともに描く未来」というテーマを掘り下げようという熱意にあふれている。十分に紙幅を割いて、多面的に切り込んでいる。写真の表情も生き生き。「ひとりじゃないよ」という見出しに連動した印象を受けた。
- ・ 表紙を含め9ページに渡る特別支援に迫った特集は、難しいテーマでありながらも多方面から現状と課題を掘り下げた内容であった。堅苦しい事業名での情報発信になりがちですが、障がいのある方やその方を支援する方々の生の声を届けることでより現状がよく伝わる。最後のページもメッセージ性が強く「ひとりじゃない」「寄り添う」といったことの大切さがひしひしと伝わってくる。

文章

- ・ 特集には短いリードがほしい。
- ・ 丁寧な文章で最後までスムーズに読むことができた。見出し、小見出しの立て方もうまく、読み手が読み飽きないよう工夫がなされていた。

デザイン
レイアウト

- ・ 全体的に躍動感、表情がいい写真が目立つ。見開き感を出す工夫が随所にみとれる。2ページ目の写真にカットを載せたのは若干ごちゃついた。少し写真から飛び出す処理をしてもよかった。
- ・ 連載やまちの話題などコーナーごとにうまくレイアウトされていた。写真の配置も良く、特に特集面では登場する方々の笑顔など表情が豊かな一瞬が収められてるのが印象的。12、13ページの財政状況コーナーも、イラストを使用するなどしてわかりやすい内容にまとめられていた。





令和4年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門

わどまり

2022.7/No.382
沖永良部島 和泊町広報誌



- ① 広報誌わどまり(7月号)
- ② 18,900部・6回
- ③ A4判 20ページ
- ④ 和泊町 企画課

- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
- ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

講評

企画

- ・ 若者や移住者に方言に親んでもらおうという狙いは好感が持てる。もっとページを割きたい。
- ・ 夏の方言をイラストとともに紹介する特集は、クイズ形式で面白く、先人から受け継いできた島の言葉を後世へ伝える上でも新しいアプローチの仕方。町長が公共施設を訪ねる特集も他の自治体広報紙にはない独自の視点による企画だった。

文章

- ・ 若干文章の文字数が多い。
- ・ 情報を詰め込みすぎた広報紙が目立つ中で、より発信したい情報に絞った紙面づくりを心掛けているように感じた。そのため文章も簡潔にまとめられており、全体としても読みやすい内容に仕上がっていた。

デザイン レイアウト

- ・ 商業誌っぽい練れたデザイン。特集の反転して読む現代語訳と対象の方言とのつながりが分かりにくかった。それぞれ番号をつけたりするなど、読み手の気持ちになってレイアウトすればより完成度が高くなる。
- ・ 表紙のイラストがまず目を引いた。中身もカラフルかつポップなレイアウトでいい意味で広報紙らしくない仕上がり。若い世代の読者を意識した紙面づくりの意図も伝わってきた。

